

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

大阪府地方独立行政法人市立吹田市民病院 市立吹田市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ド透Ⅰ 訓 方	救 陸 地 輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	39,272	非該当	非該当	7：1

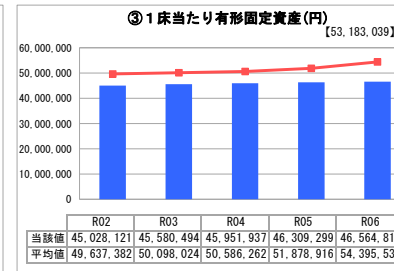
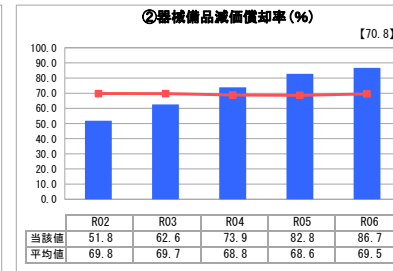
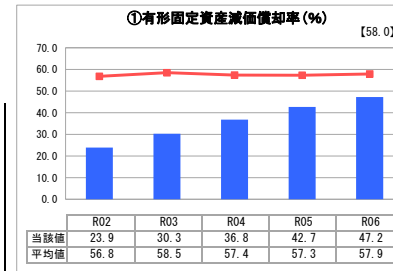
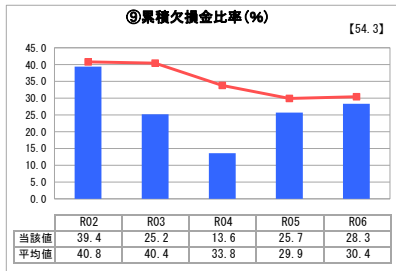
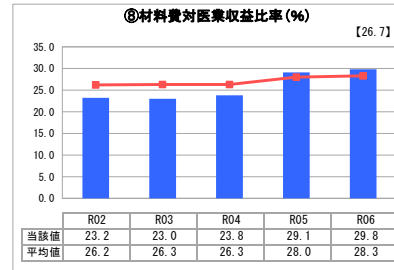
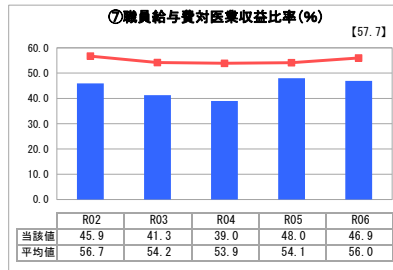
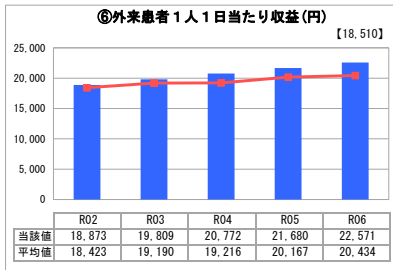
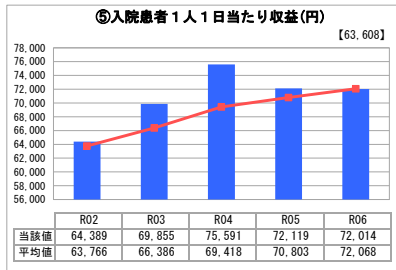
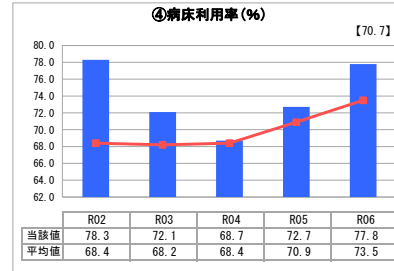
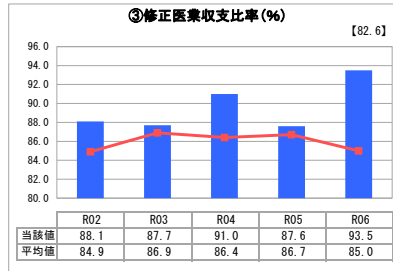
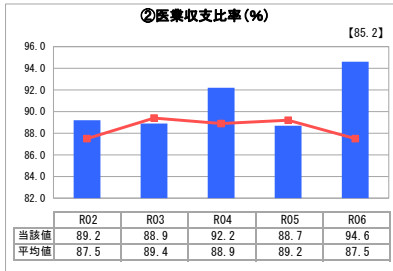
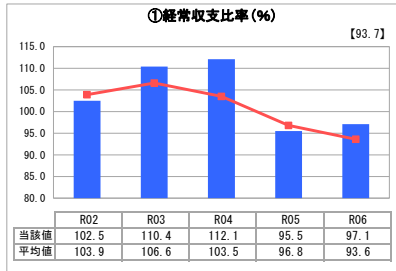
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 陸…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
431	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	431
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
373	-	373

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
[ ]	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

経営強化・運営強化 (従来の可観・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	平成26	-
-	年度	年度

### I 地域において担っている役割

地方独立行政法人市立吹田市民病院（以下、当院）は、平成26年4月1日に公共性・経済性を同時に満たす地方独立行政法人へと形態を変更し、救急医療、小児医療・周産期医療、災害医療及び高度医療などの政策医療を中心に良質な医療の提供に努め、地域の中核病院として、地域に必要な医療を継続して提供する重要な役割を担っている。

### II 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度は救急搬送・紹介患者の受入れ体制強化により、過去最高となる新入院患者を確保できたものの、平均在院日数が短縮傾向であることから、④病床利用率は令和5年度から5.1ポイントの上昇にとどまった。令和5年度と比較して、病床利用率の上昇により医業収益が増加となったほか、退職給付引当金の会計処理の影響による給与費の減少や、移転時に購入した機器等の減価償却が概ね終了したことによる減価償却費の減少で①経常収支比率、②医業収支比率、③修正医業収支比率は上昇し、類似病院平均値を上回った。しかしながら令和6年度も赤字決算のため⑨累積欠損金比率は悪化した。前述の要因により給与費が減少したことで⑦職員給与費対医業収益比率は低下、物価高騰の影響により⑧材料費対医業収益比率は上昇した。

#### 2. 老朽化の状況について

当院は平成30年12月に新病院へ移転した。旧病院は建設後35年を経過し、器械設備等の経年劣化をはじめとする施設の老朽化が進んでいたが、新病院移転時に器械設備等の更新を行ったため、①有形固定資産減価償却率は類似病院平均値を下回っている。②器械備品減価償却率は、病院移転時に整備した器械備品の主な減価償却期間が概ね5年間となっているため、耐用年数の経過とともに上昇している。

#### 全体総括

物価高騰や賃金上昇等により費用が増加しているものの、費用の増加を賄うだけの収益が確保できていない状況であり赤字決算となった。今後も物価高騰等の影響だけでなく、電子カルテの更新も控えており依然厳しい経営状況が見込まれるが、経常収支比率、医業収支比率、累積欠損金比率の改善に向けて、収益面については、引き続き救急搬送・紹介患者の受入れ体制強化、施設基準の取得及び手術件数増加の取組みを推進する。費用面については、職員給与費は人員配置や時間外勤務の適正化に努める。材料費は購入単価を抑えられるよう引き続き価格交渉ベンチマークシステムを活用する。

※1 類似病院平均値（平均値）については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。